

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 平成 28 年 3 月 31 日

事業名	小平市民の省エネ・創エネによる仮想メガソーラー事業
団体名	NPO 法人こだいらソーラー
担当課名	環境部 環境政策課
事業期間	平成 27 年 4 月 27 日～平成 28 年 3 月 31 日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

情報提供の機会としては、市役所ロビーでの省エネキャンペーン、ソーラークッカーセミナーや市民発電所の見学会に加え、環境カレンダーの配布、環境フォーラム開催等多種多様なものとなり、様々な市民との接触の機会が生まれた。そのような中から、更に、NPO 法人こだいらソーラーの会員になったり、ソーラークッカーを購入する市民が出てくる等、より積極的に省エネ・創エネに取り組み、行動する市民が出てきた。

期間中、昨年度の太陽光パネル組立セミナーの参加者と偶然お会いし、液晶 TV の電源として使い、子供の長時間視聴を抑えているという有意義な実践事例が確認できた。このように市民の生活スタイルに確実に浸透していることが伺える。環境カレンダーについては、改善を図り、市民がより使いやすいレイアウトに変更することができた。環境家計簿への参加呼びかけも省エネキャンペーンを中心に普及啓発することができた。

②自らの団体の長所が、発揮出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開できましたか。)

今年も我々独自のネットワークから、今年度は1年を通して太陽熱利用のソーラークッカーの展示やセミナーを開き、市民の高い関心を引いた。2015年6月のキャンペーンでは、それがきっかけとなり、ふれあい下水道館での夏休み学習講座への参加が決まり、小学生親子にソーラークッカーの実演をすることができた。予定外のセミナーではあったが、水が沸騰するのを見て親子で感心していて実演の効果を感じた。環境フォーラムにおいても、市内在住の建築士から「おひさま湯たんぼ」というスローライフに繋がる貴重な話が聞くことができ、市民の共感を得た。様々な場で、市民団体のアイデアならではの催しを実施し、良い結果が出たものとする。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

昨年に続く協働事業でもあり、相互の理解、連絡、連携等については、担当者同士の意思の疎通も良好で、特に支障なく事業を進めることができた。同じ担当同士で昨年の経験を踏まえ、お互いにためらいもなく率直に意思疎通ができ、行政という障壁を感じたことはなかった。今後、行政サイドの人事異動や組織変更があった時、その影響を最小限に抑える仕組みを作るのが我々市民団体の課題だと考える。

④改善提案がありますか。

市民への啓蒙活動としては、展示や講演という主催者サイドからの一方的な情報提供の形を取ることが多く見受けられる。この場合、受け止める側から見ると、世の中に多く飛び交っている情報の一つとなって、インパクトに欠けることも多いと思う。今年度、実施したソーラークッカーの実演や前年度の太陽光パネルの組立セミナーの様な実演を交えた講習会は、参加者の記憶がより鮮明に残ったり、形になった物が残るため、より深い啓蒙効果があると思う。

また、各催しについては、開催して終わりとするのではなく、その後のアンケート調査等を行い、催しの効果や市民の具体的な行動にどう結び付いたかを検証する必要があると考える。今後の活動に生かして、ノウハウの蓄積にも役立てたい。